

英文読解八ちゃんの法則50

2012年1月現在

☞ 理解できているかチェックしてみましょう。(八幡)

- 1. 英語の力は読んだ英文の量に比例する 多読！多読！多読！
- 2. 英語の力は引いた辞書の回数に比例する～ひたすら辞書を使い込む 紙の辞書を汚すのだ！
- 3. 単語の記憶は英語学習の80% 勝負の分かれ目は「語彙力」だ！
- 4. 音読するためにフォニックスの基本 読めない単語は覚えられない！読めない単語は聞こえない！
- 5. アクセントの基本法則 (例) 双子の法則 三味線語ルール イクイクルール ヤンヤンヤスヤントヤリテエの法則
子チビ母チビの法則 オロジーの上 あぶる朝へと合図
- 6. 英語と日本語の訳語は「1対1」ではない！ 英和辞典の解説をよく読め
- 7. 英文の区切り方～意味のかたまりを意識せよ
①コンマの後 ②動詞の前後 ③前置詞の前 ④関係詞の前 ⑤接続詞の前
- 8. 直読直解方式の読みをマスターせよ～同時通訳の心だ！左から右へ順に読め！
- 9. テーマ発見のテクニック
①段落の最初と最後は要注意！ ②Butの後(筆者の主張)は要注意！ ③疑問文(問題提起)は要注意！
- 10. 1パラグラフ1トピックの原則 1つの段落で言いたいことは1つだけ！
書き出しにテーマ 最終文は次のパラグラフの予告・橋渡し
- 11. 英語の基本は「主語+動詞」～家政婦は見た！ 「何が」→「どうした」or「どうなのか」
- 12. 「抽象」から「具体」の原則～英語らしさの本質 ※**具体**をヒントに**抽象**を考える
- 13. 英文展開の基本パターン
主題の提示 (序論) → **主題の展開** (本論) → **主題の再提示** (結論)
- 14. 二項対立(対比)に注目 **一般論** vs **筆者の主張**
- 15. 情報構造の原則 「旧情報」から「新情報」へ
●旧情報(既知の情報)＝お互い了解済みのこと→なるべく前に置く
●新情報(重点情報)＝相手が知らないであろうこと→なるべく後ろに置く
- 16. スキミング(本文を一読して大意を把握)とスキヤニング(本文のどの箇所に設問のポイントが書かれていたか)
- 17. 文脈とは？未知の語句は文脈から類推せよ！
①言い換え ②具体例 ③因果関係 ④対比
- 18. コンマ、ダッシュ、コロン、セミコロン、引用符にも注意せよ
— (ダッシュ)・・・前の説明・例示 : (コロン)・・・前文の補足・説明・具体化
; (セミコロン)・・・接続詞の代用＝対比と理由 ” ” (引用符)・・・「いわゆる、世間で言うところの」
(and, but, or, so, for) (私はそうは思わないが…)
- 19. 「並列」は同じ物が並ぶ (and, but, or, so, for) → and (等位接続詞)が出たら何と何を結んでいるかを確認せよ
- 20. コンマ1つはそこが切れ目、コンマ2つはその部分を飛ばして読め(挿入)
- 21. 指示語に注意～指すものは直前にあり、日頃から絶えず意識しながら読め 直前：直後＝9：1
- 22. 「つなぎ語」4種類に要注意 ※文と文の論理関係を意識 cf. 『2012英語センター対策本』p.58
①逆接(⇔) ②因果関係(→) ③追加(+) ④言い換え(=)
- 23. 英語は同じ単語を繰り返さずに、似た表現に置き換える＝「言い換え」 同意表現の対応関係を見抜く語彙力
筆者の主張したい重要なポイントは言葉を変えて繰り返される(「リフレインが叫んでる」)
- 24. 「原文典拠の法則」 正解は必ず本文に求める 何となく選ばない キーワードは**名詞**と**動詞** 判断の根拠を痕跡に残せ！
解答は必ず本文該当箇所をベースにして→該当箇所の発見&正確な解釈が全て 解答の原則は「抜き出し」自分の言葉は極力使わない
- 25. 5W1Hの法則～物語文読解の鉄則
when (いつ) **where** (どこで) **who** (誰が) **what** (何を) **why** (なぜ) **how** (どのように)
- 26. 筆者の「主張」を示す表現は？
① should/ must/ need/ have to/ had better/ ought to/ can/ 強調の do などの助動詞
② important/ necessary/ essential/ good/ bad などの主観的判断を表す形容詞
③ I think[suppose]/ I believe/ I'm sure/ I hope[wish]/ In my opinion/ As for me/ As far as I'm concerned など自分の見解を述べる表現
I wonder/ I'm not sure/ It's doubtful など懸念を表す表現
④ 逆接(but/ however/ yet/ still/ though)の後
⑤ in fact/ actually/ indeed などの副詞(語句)
⑥ 「例えば」(for example) 「なぜなら」(because) 「第一に」(First, to begin with)の直前の英文
⑦ seem/ appear/ look の後
- 27. 主張の展開パターンとは？次の3つ
① **一般論** → **but/ however** → **自分の意見**
② **自分の意見** → **具体的な説明**
③ **具体例** → **therefore/ thus** → **自分の意見**

最新版



- 28. 段落の要旨を意識 ※キーセンテンスは冒頭と末尾に来ることが多い
でがわ おに
- 29. 「無生物主語構文」は副詞的に「～で」と訳せ～「出川の鬼」(佐川春水)
- 30. 簡単な単語をおろそかにしない! [例] of だけでも「～が」「～の」「～を」「～という」の4種類
- 31. 多義語に注意! その関連にも気を配れ (主格)(所有格)(目的格)(同格)
- 32. 「名詞モード」から「動詞モード」へ! 「名詞」は元の「動詞」に戻して訳せ!
- 33. 表現(単語・熟語・構文)の「言い換え」によるカモフラージュに注意!
- 34. 「すり替え」のパターンを知れ 正解は「言い換え」不正解は「すり替え」だ!
 ①人物のすり替え ②肯定・否定のすり替え ③時間・場所・頻度の副詞要素のすり替え ④数のすり替え
 ⑤因果関係のすり替え ⑥条件関係のすり替え ⑦過度の一般化と過度の限定(極端キーワード) cf. 極端の法則
 ⑧事実と比喻のすり替え ⑨前半○後半×のパターン⑩故意の取り違え
- 35. 「消去法」の活用 オカシなものから消していけ!
- 36. プラス・マイナスのイメージに注意!
- 37. 「省略」は前と比べよ～重複部分を省略するのだ!
- 38. 「同じ」「違う」「別の」「他の」は指示語の一種→「何と同じか」「何と違うか」「何と別か」「何の他」を必ずチェック
 比較構文が出たら「何と」「何を」比較しているのかをチェック
- 39. ヒントは前後に必ず落ちている 下線部分だけではなく前後に目を配れ!
- 40. 単語の意味はイメージでつかめ! 忘れない工夫を [例] on は「接触」 in は「内部」
- 41. 単語の記憶は「へん」と「つくり」で cf. 『英単語はアタマ・オナカ・シッポで攻略だ!』
- 42. 「接頭辞」と「接尾辞」で派生語を押さえろ! 主な「語幹」も知っておくと便利
 ≪効果≫ (1)語彙力アップ (2)忘れにくい (3)未知語にも応用可能 (4)一生語彙の勉強を継続
- 43. 自分の日本語訳を読んで何を言っているかよく分からなければ間違っている証拠だ!
 <直前文の訳 → 答案の訳 → 直後文の訳>をワンセットで検算せよ
- 44. まず設問から読む習慣を 「何が問われているか」を頭に入れた上で本文を読む 設問を逆手に取って該当箇所を見つけることも
- 45. 内容一致問題は「部分把握型」≪易≫か「展開把握型」≪難≫か?
- 46. 答案作成の基本 ①文の構造を正しくとらえているか(美しさより正しさが優先)
 ②日本語の意味が通っているか(誰もが理解できる分かりやすさ)
- 47. 答え方に注意 締め表現に気を配るのは答案作成の基本
 「～はどのようなことか説明せよ」→「～ということ」
 「～はどのように考えか説明せよ」→「～という考え」
 「～の理由を述べよ」→「～であるから」
- 48. 字数制限に注意～答案の目安は制限字数の8割～9割
 ●多すぎる場合⇒余分な情報が入っている (→内容を削らずに字数だけを削る)
 ●少なすぎる場合⇒見逃している箇所がある
- 49. 答案を書いたら必ずもう一度読み返す～ケアレスミスは命取り! 1点の恐ろしさを知れ!
- 50. 裏技10本～「八幡家の食卓」 (例) 長さの法則 仲間外れの法則 極端の法則



■ 英語力の養成

